

香川県知事等南米移住各国訪問

4.真鍋知事の訪問

パラグアイ、ブラジル、ペルーで交流 知事ら県南米訪問団

知事や県議会代表、県市長会代表らで組織した県南米訪問団(団長・真鍋知事、13人)は、5月27日から6月10日まで、パラグアイ、ブラジル、ペルーの3カ国を歴訪、各国で活躍する香川県人会員たちと交流を深めました。

南米移住の記念すべき年

今年は、ペルーが県人移住100周年、ブラジルが県人移住90周年、パラグアイが県人会創立30周年という節目の年に当たります。訪問団の一行は、南米各国で記念式典への参加、現地で活躍する県人の訪問など、実り多い交流を図りました。

各国の記念式典であいさつした真鍋知事は「幾多の困難を克服し今日の揺るぎない地位を築かれ、さまざまな分野で活躍し各国の発展に貢献されております皆さまに心から敬意を表します」と述べた後、県では高松自動車道の全通、サンポート高松の整備や、さぬきうどんが全国的ブームになっていることなどを報告しました。また、南米移住1世紀の歴史を記録にとどめるため、「香川県南米移住史」の編さんを進めていることも紹介しました。

各地で熱烈な歓迎に感動

最初の訪問国パラグアイでは、大統領、外務大臣代理を表敬訪問し、日系社会やパラグアイのことについて意見交換しました。日本人のパラグアイ移住の草分けでもある故笠松尚一前県人会長の墓参りや日系社会福祉センターの視察も行いました。

ブラジルでは移民資料館を視察、移住した県人が経営する養鶏場やアルミ工場を訪問しました。記念式典では、平成13年度の研修員として香川県で学び、今は母国で活躍する小島渚さんが「県人会の会員は減りつつあります。若い人が集まる行事が少ないため、私たち研修員が中心となって、日本文化・日本料理など若者が興味を持つものを増やしたい。香川県との交流をもっと進め、県人会員同士もスポーツ・文化交流などできずなを深めたい」とあいさつしました。

ペルーでは、日本人移住者の初上陸地や入植地を視察しました。学校訪問では、子どもたちが日の丸を振って大歓迎し、訪問団員たちを感動させました。

研修員が交流の懸け橋に

決死の思いで太平洋を横断し、目を覆うような荒野を開拓し、日本人ならではの勤勉さでコーヒー園やイモ畑(マンジョーカ)を作ってきた一世たちの移住から1世紀が過ぎました。今では日本人の初上陸地ペルーのセロ・アスルにも豊かな緑野が広がっています。一世は高齢化して二、三世の時代となっていますが、各国に融合しながら発展に貢献しています。訪問団

員たちの聞いた日系人の評価は、どこの国でも相当高いものがありました。

香川県で研修を受けた人々も各地で活躍し、交流の懸け橋となっています。特に、ブラジルで養鶏を営む熊野新一さんやアルミ工場を経営する香川和三さんのように子弟にも香川県で研修を受けさせていることが交流の深さを物語っています。香川で研修を受けた人たちも多数記念式典に顔を見せ、通訳の手伝いをするなど旧交を温めました。

ブラジルの南米県人会館は県人会員同士はもちろんブラジル人との交流拠点となり、パラグアイの人づくりセンターでは日系人とパラグアイ人がともに学んでいます。ペルーのラ・ウニオン総合学校はリマの優れた教育機関で、日本の伝統や習慣を重んじ、日本の大学進学への道も開かれています。香川の高校との交流も希望していました。

訪問団員たちが肌で感じた移住者たちの母県香川へ寄せる熱い思い。今後、県も県人会や研修員を通じてさらに交流を深め、各国の発展に貢献していかなければなりません。

各国県人会長のメッセージ

パラグアイ 平井孝吉会長

昭和11年に故笠松前会長が入植以来、27家族が入植した。県人会は昭和48年、金子知事が訪問の際に設立、現在は50世帯の会員がいる。今まで36人の技術研修員を受け入れてもらったほか、日本語教師の派遣など、母県の支援に感謝する。帰国研修員OB会の活性化などで香川県との交流を充実させたい。

ブラジル 蓮井清朗会長

大正2年、6家族28人がサントスに上陸したのが県のブラジル移住の始まり。日本とまったく違った環境で先輩の血と汗の結晶で今日の地位が築かれた。平成20年には日本人移住100周年を迎える。県の支援を忘れることなく、県人会とのきずなを一層深めたい。

ペルー 土居ネリ会長

明治36年の入植以来、苦労をともにした同胞が、県人会の基礎を築いてくれました。長い旅路で県知事様はじめ大勢のご来臨をいただき、盛大に意義ある催しができました。讃岐は私どもには、第二の郷里ではなく、第一の故郷です。皆様のご発展と瀬戸内海を望む美しい自然が末永く続きますようお祈りします。

南米の香川県人

去る5月27日から南米、パラグアイ、ブラジル、ペルーの3カ国を訪問しました。

郷土香川県からこれらの国に移住され、それぞれの国で活躍されている方やその子孫の方々に構成されている香川県人会の記念式典に招待され、その式典に参加して共にお祝いするとともに、会員の方々のご活躍の様子を拝見し、意見交換をいたしました。



ブラジル県人会の皆さんと南米訪問団

地球の反対側にある国に移住し、気候、習慣、言葉などすべてが異なる地において、大変なご苦労にもかかわらず、営々と努力された結果、今日の地位を築き上げられた方々です。お話を伺い、頭の下がる思いがしました。国内にいる人以上に、「自分は日本人」という意識を強く持って、「日本人だからうそをつかない、悪いことをしない」と心に決めて行動をされたようです。その結果、それぞれの国で尊敬され高い評価を受けています。私も、今回パラグアイの大統領を表敬訪問した際、大統領から直接、「日本移民は優秀でパラグアイ国の発展に大きく貢献している」との言葉をいただき、感激するとともに、誇りに思いました。

お会いした県人会の方々には、親、子、孫と一緒に大家族で暮らしている場合が多く、さらに、親類縁者がよく集まるようです。私たちが訪問した時も、一族の方が大勢集まってにぎやかに歓迎していただきました。何かほっとするとともに、なつかしい思いでした。私たちは、大切なものを失ったのではないかと考えさせられた旅でした。